



## 2026年3月期 第3四半期決算短信【日本基準】(連結)

2026年2月10日

上場会社名 カメイ株式会社  
 コード番号 8037 U R L <https://www.kamei.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 亀井昭男  
 問合せ先責任者 (役職名) 管理部長 (氏名) 遠藤忠章 T E L 022-264-6111  
 配当支払開始予定日 —  
 決算補足説明資料作成の有無：有  
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2026年3月期第3四半期の連結業績 (2025年4月1日～2025年12月31日)

(1) 連結経営成績 (累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
2026年3月期第3四半期	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第3四半期	421,777	3.2	10,837	5.6	12,023	3.2	7,336	3.1

(注) 包括利益 2026年3月期第3四半期 8,622百万円 (3.5%) 2025年3月期第3四半期 8,331百万円 (△34.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2026年3月期第3四半期	円 銭	円 銭
2025年3月期第3四半期	239.77	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
2026年3月期第3四半期	百万円	百万円	%
2025年3月期	327,768	172,639	50.0

(参考) 自己資本 2026年3月期第3四半期 163,779百万円 2025年3月期 158,119百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2025年3月期	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年3月期	—	28.00	—	45.00	73.00
2026年3月期（予想）	—	50.00	—	55.00	105.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有

・配当予想の変更については、本日公表の「期末配当予想の修正（増配）に関するお知らせ」をご覧ください。

### 3. 2026年3月期の連結業績予想 (2025年4月1日～2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
通期	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- |                      |    |
|----------------------|----|
| ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | ：無 |
| ② ①以外の会計方針の変更        | ：無 |
| ③ 会計上の見積りの変更         | ：無 |
| ④ 修正再表示              | ：無 |

(4) 発行済株式数（普通株式）

- |                     |
|---------------------|
| ① 期末発行済株式数（自己株式を含む） |
| ② 期末自己株式数           |
| ③ 期中平均株式数（四半期累計）    |

2026年3月期3Q	32,991,969株	2025年3月期	32,991,969株
2026年3月期3Q	2,392,561株	2025年3月期	2,392,231株
2026年3月期3Q	30,599,533株	2025年3月期3Q	33,077,333株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9
(セグメント情報等の注記)	10
(重要な後発事象)	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### （1）経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における世界経済は、長期化するウクライナ・中東情勢による原材料価格の高止まり、金融資本市場の変動や米国の政策動向による影響など依然として先行き不透明な状況が続いております。

国内経済におきましては、雇用・所得環境の改善やインバウンド需要の増加などを背景に緩やかな回復基調で推移したものの、不安定な国際情勢や物価上昇が続いたほか、米国の関税政策による影響など先行き不透明な状況となりました。

このような環境のなか、当社グループは、「地域社会に密着し、人々の生活に役立つ総合商社として活動発展することをめざす。」という企業理念のもと、お客様の多様なニーズに的確にお応えするため、新商材・新事業の開発や各種商材の提案営業を強力に推進しました。

また、2024年5月に「長期経営方針」を策定し、グループの総合力向上と経営基盤を強化し将来にわたる持続的な成長を図るために、人的資本経営やM&Aによる事業領域の拡大に取り組んでまいりました。

2025年5月には、収益力の強化に向けて戦略をより明確にした上で、資本コストや株価を意識した経営の強化を図るため「長期経営方針」を更新し、新たな基本戦略に基づき、グループ筋肉質化と稼ぐ力の向上に取り組んでおります。当期においては、海外・貿易事業における北米市場での連携強化を目的としてCentral Boeki U.S.A., Ltd.、Central Boeki Calif., Ltd. 及びKatagiri & Co., Inc. の子会社3社を、北米事業を統括する現地法人Kamei North America Co., Ltd. の傘下に統合する再編を行いました。また、末広ガス株式会社（L Pガス及び住宅設備機器の販売等を展開）を当社グループに迎え入れ、エネルギー事業の強化を図りました。

さらに、2050年までのカーボンニュートラルの実現に向けて、バイオマス原料から作られる次世代バイオディーゼル燃料「サステオ」や、製造から燃焼までに排出されるCO<sub>2</sub>をオフセットする「カーボンオフセット L Pガス」などの販売を強化しました。

以上の結果、売上高は4,217億77百万円（前年同期比3.2%増）、営業利益は108億37百万円（前年同期比5.6%増）、経常利益は120億23百万円（前年同期比3.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は73億36百万円（前年同期比3.1%増）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

#### ①エネルギー事業

当事業部門は、構造的な石油製品需要の減少が続く厳しい販売環境が続いております。

産業用燃料油販売につきましては、新規・深耕開拓に取り組むとともに、次世代バイオディーゼル燃料「サステオ」をはじめ、脱炭素・省エネなど時代のニーズに合致した商材の拡販に努めました。

L Pガス販売につきましては、新規顧客獲得や営業権取得に努めるとともに、L Pガスの原料採取から燃焼までの全ての過程で排出されるCO<sub>2</sub>を環境保全活動により創出されたカーボンクレジットでオフセットする「カーボンオフセット L Pガス」の提案やハイブリッド給湯器などの環境商材の販売を強化しました。また、当社のL Pガスと東北電力株式会社の電気料金プランをセットで申し込むことでL Pガス料金が割引される「すまいるセット割」の対象を拡大し、更なる顧客獲得を推進しております。

ガソリンスタンド運営につきましては、お客様のニーズにお応えするため、タイヤ・整備・洗車・コーティングなどトータルサービスの強化を図り、新規顧客獲得に努めました。また、カーコーティングショップの新規出店など、競争力の強化に努めました。

以上の結果、売上高は1,957億98百万円（前年同期比1.5%増）、営業利益は28億4百万円（前年同期比17.5%増）となりました。

#### ②食料事業

当事業部門における食品販売につきましては、全国的な米の需要増加などにより農産品の販売数量が増加したほか、新規・深耕開拓や販売強化などにより施設向け完全調理済み食品の販売が伸長し好調に推移しました。

酒類販売につきましては、地酒などの差別化商品の販売強化や輸入ワインの取扱商品を拡充するとともに、新規・深耕開拓に努めたものの、メーカーの値上げによる販売数量の減少などにより、やや厳しい状況となりました。

以上の結果、売上高は299億39百万円（前年同期比9.0%増）、仕入価格上昇分の価格転嫁が進んだことなどにより営業利益は7億58百万円（前年同期比933.0%増）となりました。

#### ③建設関連事業

当事業部門における建設事業につきましては、主力の鉄骨工事が伸長したものの、メガソーラー工事の減少などにより前年同期並みとなりました。

ハウジング事業につきましては、リフォーム・リノベーションの体制を拡充したことなどにより受注が増加した

ほか、ハウスメーカー及び工務店への住宅設備機器の提案営業に努めたことなどにより堅調に推移しました。

以上の結果、売上高は373億25百万円（前年同期比0.1%増）、営業利益は10億73百万円（前年同期比2.5%減）となりました。

#### ④自動車関連事業

当事業部門における国産車販売につきましては、前年同期のメーカーの認証不正問題による販売台数減少の反動や法人営業の強化に努めたことなどにより販売台数が伸長し好調に推移しました。

輸入車販売につきましては、イベントの開催などによる拡販に努めたものの、販売競争の激化などにより厳しい状況となりました。

レンタカー事業につきましては、店舗網の拡充及び店舗のリニューアルによる競争力の強化や、法人客の新規・深耕開拓に努めたほか、観光需要の増加などにより順調に推移しました。

以上の結果、売上高は613億14百万円（前年同期比10.3%増）、営業利益は42億25百万円（前年同期比15.1%増）となりました。

#### ⑤海外・貿易事業

当事業部門における海外事業につきましては、北米の子会社3社を新たに連結の範囲に含めたことなどにより売上高は増加しました。一方で米国関税政策によるコスト増の転嫁が遅れたことや、物価高騰に伴う販管費の増加などにより営業利益は減少しました。

貿易事業につきましては、海外ブランドシューズの販売が伸長したものの、水産物の輸入や中国向けベアリングなどの輸出が減少したことなどにより低調に推移しました。

以上の結果、売上高は642億59百万円（前年同期比1.9%増）、営業利益は33億18百万円（前年同期比13.5%減）となりました。

#### ⑥ペット関連事業

当事業部門におけるペットフード・用品販売につきましては、自社ブランド商品の開発強化とホームセンターなどへの販路拡大に努めたものの、販売競争の激化などにより、やや厳しい状況となりました。

園芸用品販売につきましては、自社ブランド除草剤・肥料の拡販や新規・深耕開拓を推進したことなどにより堅調に推移しました。

以上の結果、売上高は109億37百万円（前年同期比0.7%増）、営業利益は人件費及び物流費の増加などにより1億16百万円（前年同期比35.7%減）となりました。

#### ⑦ファーマシー事業

当事業部門につきましては、新規出店による店舗網の拡充効果や地域の皆様から選ばれる「かかりつけ薬剤師・薬局」への取り組みを推進したことにより売上高が増加したものの、人件費の増加などにより営業利益が減少しました。

以上の結果、売上高は151億15百万円（前年同期比1.5%増）、営業損失は1億10百万円（前年同期は2億9百万円の営業利益）となりました。

#### ⑧その他の事業

その他の事業につきましては、オフィス機器販売、リース業、運送業及び保険代理店業などを展開しており、新規顧客の獲得や提案営業の強化に努めたことなどにより順調に推移しました。

以上の結果、売上高は70億87百万円（前年同期比6.4%増）、営業利益は8億31百万円（前年同期比41.1%増）となりました。

### （2）財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は3,277億68百万円となり、前連結会計年度末に比べ70億57百万円増加しました。これは主として、固定資産の取得により有形固定資産が34億78百万円、投資有価証券の評価額が増加したことにより投資有価証券が39億82百万円それぞれ増加したことなどによるものであります。

負債は1,551億28百万円となり、前連結会計年度末に比べ8億81百万円増加しました。これは主として、賞与引当金が11億89百万円減少した一方、支払手形及び買掛金が20億28百万円増加したことなどによるものであります。

純資産は1,726億39百万円となり、前連結会計年度末に比べ61億76百万円増加しました。これは主として、投資有価証券の評価額が増加したことにより、その他有価証券評価差額金が25億32百万円増加したことのほか、剩余金の配当29億6百万円及び親会社株主に帰属する四半期純利益73億36百万円の計上などにより利益剰余金が49億98百万円増加したことによるものであります。

以上の結果、自己資本比率は50.0%（前連結会計年度末は49.3%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年3月期の通期連結の業績予想につきましては、2025年5月13日発表の予想数値から変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流动資産		
現金及び預金	62,262	62,458
受取手形、売掛金及び契約資産	76,035	74,229
商品及び製品	32,007	34,045
仕掛品	2,439	2,788
原材料及び貯蔵品	1,149	1,352
その他	14,102	12,848
貸倒引当金	△166	△141
流动資産合計	187,829	187,581
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	68,206	70,821
減価償却累計額	△42,950	△44,451
建物及び構築物（純額）	25,255	26,369
土地	37,283	37,545
その他	93,004	97,277
減価償却累計額	△57,350	△59,521
その他（純額）	35,654	37,756
有形固定資産合計	98,193	101,671
無形固定資産		
のれん	1,071	1,539
顧客関連資産	2,201	1,758
その他	2,704	2,751
無形固定資産合計	5,977	6,048
投資その他の資産		
投資有価証券	21,859	25,841
その他	8,213	8,068
貸倒引当金	△1,362	△1,443
投資その他の資産合計	28,710	32,466
固定資産合計	132,881	140,186
資産合計	320,710	327,768

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形及び買掛金	56,843	58,871
短期借入金	37,690	38,089
未払法人税等	3,276	1,277
前受金	7,666	6,072
賞与引当金	2,179	990
その他	14,662	16,311
<b>流動負債合計</b>	<b>122,319</b>	<b>121,612</b>
<b>固定負債</b>		
長期借入金	5,499	4,903
役員退職慰労引当金	130	141
退職給付に係る負債	2,825	2,790
資産除去債務	1,352	1,374
その他	22,119	24,307
<b>固定負債合計</b>	<b>31,927</b>	<b>33,515</b>
<b>負債合計</b>	<b>154,247</b>	<b>155,128</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	8,132	8,132
資本剰余金	7,361	7,361
利益剰余金	127,666	132,664
自己株式	△3,320	△3,321
<b>株主資本合計</b>	<b>139,839</b>	<b>144,836</b>
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	6,038	8,570
繰延ヘッジ損益	△0	△1
土地再評価差額金	304	304
為替換算調整勘定	12,077	10,131
退職給付に係る調整累計額	△138	△62
<b>その他の包括利益累計額合計</b>	<b>18,280</b>	<b>18,942</b>
<b>非支配株主持分</b>	<b>8,344</b>	<b>8,860</b>
<b>純資産合計</b>	<b>166,463</b>	<b>172,639</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>320,710</b>	<b>327,768</b>

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年 4月 1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年 4月 1日 至 2025年12月31日)
売上高	408,684	421,777
売上原価	342,868	351,105
金融収益	1,133	916
売上総利益	66,949	71,588
販売費及び一般管理費	56,684	60,751
営業利益	10,265	10,837
営業外収益		
受取利息	216	241
受取配当金	401	526
仕入割引	166	195
持分法による投資利益	173	189
その他	1,138	946
営業外収益合計	2,096	2,098
営業外費用		
支払利息	448	516
寄付金	92	93
貸倒引当金繰入額	66	79
その他	104	222
営業外費用合計	712	912
経常利益	11,649	12,023
特別利益		
固定資産売却益	39	179
投資有価証券売却益	51	6
特別利益合計	91	185
特別損失		
固定資産売却損	11	6
固定資産除却損	55	28
その他	4	6
特別損失合計	71	40
税金等調整前四半期純利益	11,669	12,168
法人税、住民税及び事業税	3,750	3,958
法人税等調整額	279	298
法人税等合計	4,030	4,257
四半期純利益	7,639	7,911
非支配株主に帰属する四半期純利益	526	574
親会社株主に帰属する四半期純利益	7,113	7,336

## (四半期連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年 4月 1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年 4月 1日 至 2025年12月31日)
四半期純利益	7,639	7,911
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	263	2,614
繰延ヘッジ損益	1	△0
為替換算調整勘定	402	△1,965
退職給付に係る調整額	9	34
持分法適用会社に対する持分相当額	14	28
その他の包括利益合計	691	711
四半期包括利益	8,331	8,622
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	7,914	7,998
非支配株主に係る四半期包括利益	416	623

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

## (四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年 4月 1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年 4月 1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	9,180百万円	9,858百万円
のれんの償却額	177	349

## (セグメント情報等の注記)

I 前第3四半期連結累計期間（自 2024年4月1日 至 2024年12月31日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					
	エネルギー事業	食料事業	建設関連事業	自動車関連事業	海外・貿易事業	ペット関連事業
売上高						
外部顧客への売上高	192,846	27,476	37,297	55,612	63,035	10,864
セグメント間の内部売上高 又は振替高	3,343	1,351	55	136	216	0
計	196,189	28,827	37,352	55,748	63,251	10,864
セグメント利益	2,385	73	1,101	3,670	3,836	181

	報告セグメント		その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	ファーマシ ー事業	計				
売上高						
外部顧客への売上高	14,893	402,025	6,659	408,684	—	408,684
セグメント間の内部売上高 又は振替高	144	5,247	4,262	9,510	△9,510	—
計	15,038	407,273	10,922	418,195	△9,510	408,684
セグメント利益	209	11,459	589	12,048	△1,783	10,265

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、情報機器の販売、運送業、不動産賃貸業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△1,783百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,785百万円及び固定資産に係る調整額2百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## II 当第3四半期連結累計期間（自 2025年4月1日 至 2025年12月31日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					
	エネルギー事業	食料事業	建設関連事業	自動車関連事業	海外・貿易事業	ペット関連事業
売上高						
外部顧客への売上高	195,798	29,939	37,325	61,314	64,259	10,937
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,267	1,210	270	133	373	0
計	198,065	31,149	37,596	61,448	64,632	10,937
セグメント利益又は損失(△)	2,804	758	1,073	4,225	3,318	116

	報告セグメント		その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	ファーマシ ー事業	計				
売上高						
外部顧客への売上高	15,115	414,690	7,087	421,777	—	421,777
セグメント間の内部売上高 又は振替高	94	4,349	4,580	8,930	△8,930	—
計	15,210	419,040	11,667	430,708	△8,930	421,777
セグメント利益又は損失(△)	△110	12,185	831	13,017	△2,179	10,837

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、情報機器の販売、運送業、不動産賃貸業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△2,179百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△2,122百万円及び固定資産に係る調整額△57百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。